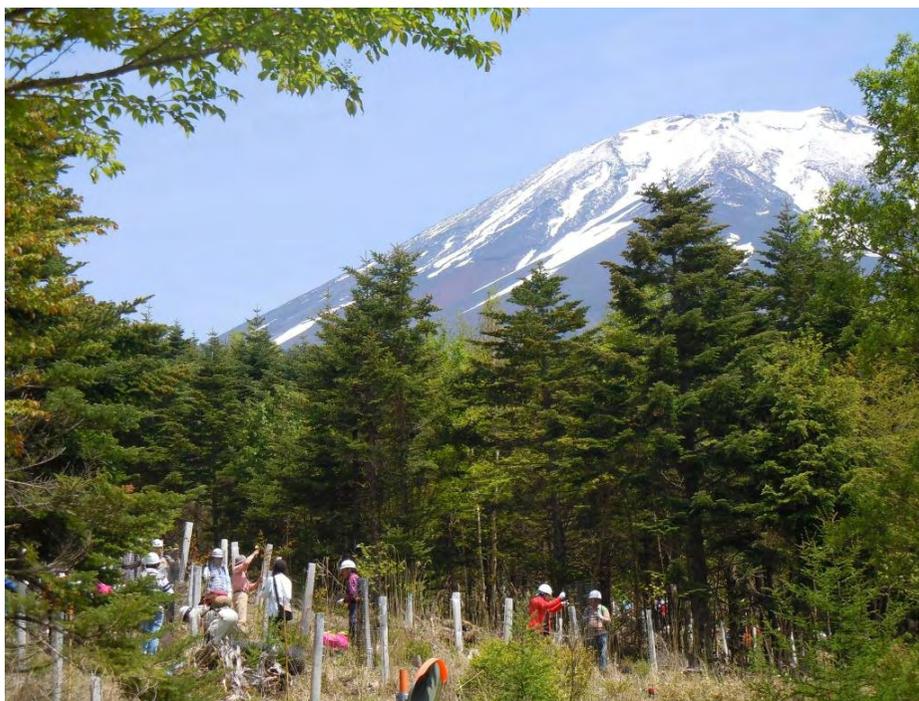


富士山の森づくり

～協働による100年の森づくり～



OISCA

「富士山の森づくり」プロジェクト地と周辺図



富士山は、古くから日本人の心のふるさととして親まれてきました。その麓に広がる森林を含めて世界文化遺産に登録されています。ところが、富士山の森の一部では、虫害の発生などにより豊かな森林や生態系を失われてしまいました。

「富士山の森づくり」活動は、虫害により損なわれた森林（標高1,600m付近のシラベ人工林）に、広葉樹を植林し、多様性のある森の早期再生を目指して2007年にスタートしました。

なぜ富士山で森づくり？

◆ 損なわれた森を救う

植栽されて約50年たったシラベ人工林で、2002年、トウヒツヅリハマキの大発生による被害にあいました。森林の枯死面積は100ha(東京ドーム約20個分)にもおよび、一つの樹種のみで作られた森林は環境変化への抵抗性が弱いことを見せつけられました。このまま放置すれば被害は甚大になることが懸念されたため、山梨県は被害の少ない場所で列状に伐採し、自然に落下した種子から多様な樹種からなる森林への再生を試みました。

そこでこのプロジェクトでは・・・P2へ



亜高山性樹種シラベ



トウヒツヅリハマキ



枯れたシラベ

「富士山の森づくり」で目指すもの

①天然更新よりも早い森の再生

標高が高く厳しい自然条件や、母樹の少ない立地環境である本プロジェクト地域では、自然に任せた天然更新だけの森林再生では時間がかかり、土壌浸食(どじょうしんしょく)・土砂流出をも招きかねません。そこで、少しでも早い森林の再生をはかるため、富士山の天然林で集めたタネから苗木を育て、植林しています。これにより、森林の再生を早めることができると予想しています。



付近の天然林

②統一した森づくり

NPOや企業がそれぞれ独自に植林活動を行うと、目標とする森林の姿が異なり、森林の公益的機能を十分に発揮することが難しくなります。そこで地域にあった植栽樹種の選択や植栽方法など、技術面で統一した基準を設け、専門家や林業者、企業・団体、行政、地元の人々と一丸となった協働が必要です。

③美しい富士山を守るために

富士山においては、森林の公益的機能を十分に発揮し、景観的にも美しく、生物多様性にも富んだ森づくりがふさわしいと考え、針葉樹と広葉樹の混交林を目指します。

④森林について多くの人に知ってもらいたい

多くの企業や団体が参加することでCSR活動のフィールドとしても活用され、森づくりや森の役割について理解する人が増え、富士山だけにとどまらない、森林教育の啓発活動に繋がっていきと考えています。

⑤森で働く人を元気に！地域を元気に！

ボランティアだけでは森林再生はできません。その地域で森林に関わって働くプロの力と技術が必要です。そのためには民間の資金協力で雇用を促進し、また山村とボランティアなどの交流人口が増加することにより、地域が活性化していくことが重要となってきます。



地元林業者の声
俺っち(方言)の森に皆さんが協力してくれているから、その苗木をしっかり育てるのが我々の責任です。

どんな活動をしているの？

◆植林

「富士山の森づくり」プロジェクトは2007年からオイスカが調整役となり、多くの企業・団体の参加を得て行われています。植栽時期には毎年、各企業・団体からの多くのボランティアと、地元林業者、行政などの協働により、植林活動が実施されています。



<どんな苗木？>

事前調査により、付近の天然広葉樹林に多くある樹種の中から、ブナ、ミズナラ、カエデ、ヤマハンノキ、ヤマザクラなど5種類の自生種(じせいしゅ)を選び、育苗した苗を用いています。また、苗木がしっかりと根付き元気に育つよう、またボランティアでも植えやすいように、根を肥沃な土で包んだ「根巻き苗」を植えています。



<どんな植栽方法？>

付近の天然林は1ha(100×100m)に約1200～1500本の樹木が生えているので、1haあたり約1000本の広葉樹苗を、自然の木々の配置をイメージしてランダムに植えました。

<ニホンジカの食害から苗木を守る>

シカの被害は日本中の森で問題となっていますが、「富士山の森づくり」活動地でも大きな課題です。木が枯死した場所や列状に伐採された場所では地表に日光があたり、草や低木などシカが食べやすい植物が増えました。毎年行っているシカの頭数調査でも、適正とされる頭数の約10倍の生息が確認されています。苗木をシカの食害から守らなければ、せっかく植えた木が枯れてしまいます。苗木を守る方法や対策をいろいろ検討していますが、本プロジェクトではまず、生分解性の「ウッドガード」を設置しました。これによりある程度の食害防止効果や、保温によると考えられる成長促進効果も見られました。



しかし、シカの頭数に大きな変化もなく「ウッドガード」が分解したあとも引き続き苗木の保護が必要となったことから、特注の獣害対策ネットを設置しています。

<植えた木はどうなった？>

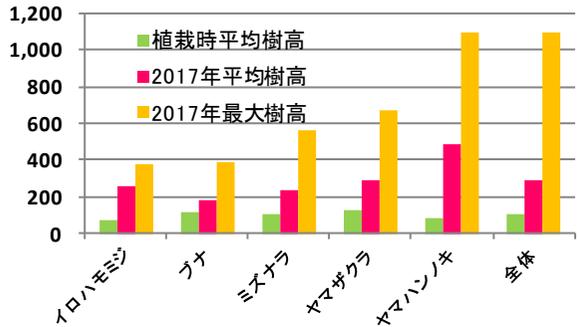
2017年度時点

- ・植栽本数(補植含む) 約42,500本
- ・平均樹高 約300cm
- ・ボランティア参加人数 8,834名
- ・地元雇用者数 約3,300名
- ・CO2吸収量 20,567t-co2/年

* 2015年度調査データ、「山梨の森づくり・CO2吸収認証制度」におけるCO2吸収算出法に基づく

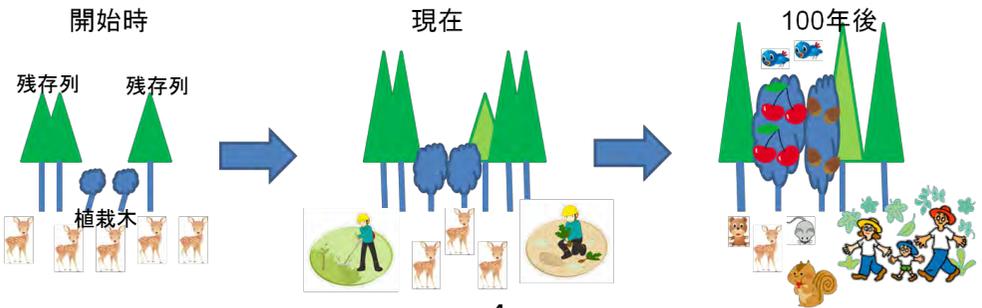


植栽した苗木は概ね順調に育っており、平均樹高で約300cm、高いものだと10m(ヤマハンノキ)を越えて育っている木もあります。一方、強風や大雪の影響などで生育が阻害されている苗木もあり、引き続き見守り、状況に適した管理作業を行う必要があります。



◆100年後に目指す理想の森の姿

- もともと生えている針葉樹の大木とともに、植栽した広葉樹や天然更新した樹種による「青年期」の森林が成立している
- 植栽した樹木の多くが種子を生産できるようになっており、森が自律的に維持されつつある
 - ・ ヤマザクラの果実を食べに来る鳥が増えている
 - ・ ブナやミズナラの豊作年には、野ネズミやツキノワグマがドングリを食べに訪れる
- 大きな木や小さな木によって構成されている
- 近くの天然林と同じような生き物を育てている
- シカは適正な生息数にあり、シカ対策は必要ない



◆モニタリング調査

植栽した苗木や周辺の環境について、毎年状況を調査してその結果を公表しています。この調査は、植栽木の生育状況や自然状態を把握し、目標としている多様性のある森林に向かってきちんと育っているかをチェックするためのものです。その調査結果を分析し、それに基づき適切な保育を行う「順応的管理」を実践しています。



植栽木の成長調査

【植栽木の生育調査】

植栽木の活着・生育状況を測定し、同時に下層の植物の状況を把握しています。またシカ対策ネットの状態や効果を調べています。

【森林の再生調査】

植栽した木、これまで育ってきたシラベ、そして自然に生えてきた樹木全体を把握するために実施します。また木の成長にシカがどの程度影響を与えるのかのことに留意しながら姿を追いかけています。

【動物の生育調査】

富士山の森づくりにとって大きな課題の一つであるニホンジカ。活動地付近にどのくらいのニホンジカが生存しているかを定期的に把握する必要があります。そこでライトセンサス法(夜間に強力なライトを投光してシカを発見する方法)により個体数調査を行っています。その結果として、ニホンジカの個体数は多く、依然として森林への影響は大きいことがわかります。



夜間のシカ



採集した土壤動物

◆下刈り、除伐、メンテナンス、補植作業

モニタリング調査結果を分析し、必要に応じて管理作業を行っています。

下層植生の繁茂が著しいエリアでは下刈りを実施しているほか、天然更新木が多く、植栽木への生育阻害が懸念されるエリアでは、苗木の周りのみ除伐を行っています。

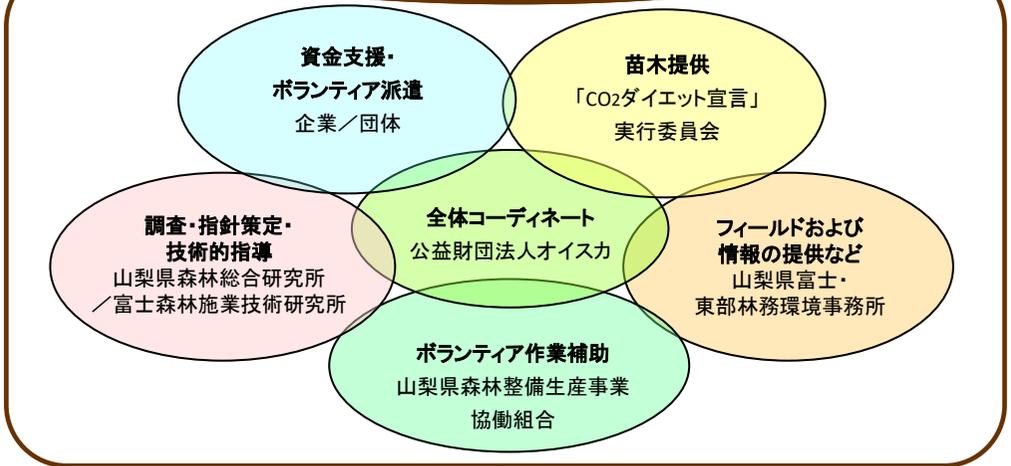
また、強風や大雪、またシカによりシカ対策ネットが倒伏したり、傾き・ガード外れ・支柱折れが発生しているエリアでは、ネットの補修・メンテナンス作業を実施しています。

そうした作業の結果、殆どの苗木は概ね順調に育っていますが、風や雪の影響により枯れてしまったエリアでは、大きめの苗木を補植しています。



誰が参加しているの？

「富士山の森づくり」協働のかたち



富士山の森づくり 推進協議会

【「富士山の森づくり」推進協議会とは】

「富士山の森づくり」を進めていくに当たり、多くの人にプロジェクトの目的や内容を理解してもらい、森林の重要性や林業に関心をもってもらうこと、また、協働の森づくりによって醸成される技術・ノウハウを関係者が共有し、広く普及していくことを目的に発会。下記の協議を行っています。

- 1) 「富士山の森づくり」プロジェクト実施計画の検討・連絡調整・連携強化
- 2) 実施に伴う調査・研究成果情報の発信、持続可能な森林再生ノウハウ技術の普及
- 3) 協働による「富士山の森づくり」がもたらす森づくりシステムの普及
- 4) 地域の活性化
- 5) 森林に関する普及啓発活動
- 6) 培われた技術・ノウハウの民有林整備への活動 など

➡ これらの協議により、参加企業・団体と共にプロジェクトを発展させていきます。

「富士山の森づくり」推進協議会 参加企業・団体(順不同)

- ・いすゞ自動車株式会社
- ・株式会社 オギノ
- ・オルビス株式会社
- ・株式会社関電工
- ・KDDI株式会社
- ・信濃化学工業株式会社
- ・出光昭和シェル
- ・JBCCホールディングス株式会社
- ・鈴健興業株式会社
- ・住友重機械工業株式会社
- ・全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合
- ・東京電力ホールディングス株式会社
- ・豊田通商株式会社
- ・鳴沢・富士河口湖恩賜県有財産保護組合
- ・日本再共済生活協同組合連合会
- ・日本鉄道労働組合連合会
- ・富士急トラベル株式会社
- ・特定非営利活動法人富士森林施業技術研究所
- ・三菱UFJファクター株式会社
- ・日立キャピタル株式会社
- ・本田技研工業株式会社
- ・林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所
- ・山梨県森林環境部
- ・山梨県富士・東部林務環境事務所
- ・山梨県森林整備生産事業協同組合
- ・山梨県森林総合研究所
- ・一般社団法人山梨県森林協会
- ・山梨県鳴沢村
- ・公益財団法人オイスカ

「富士山の森づくり」・本パンフレットに関するお問い合わせ

「富士山の森づくり」推進協議会 事務局

公益財団法人オイスカ 啓発普及部

東京都杉並区和泉2-17-5 電話:03-3322-5161 FAX:03-3324-7111

Email: fujisan@oisca.org

「富士山の森づくり」<http://www.oisca.org/project/japan/fuji.html>



緑の募金

令和元年度緑の募金事業

「緑の募金」は、森林の整備や次世代の人材育成を支援します。

国土緑化推進機構

2020年3月改訂